



たまり場

2004年7月
創刊号

会報誌

<http://tamari-ba.charcoal-valley.net/>

目次

- 1 挨拶
- 2 設立趣意書
- 3 メッセージ
- 4.5 設立記念パーティー
- 6 サタデースクールの紹介
- 7 特集『今の子供達は』
- 8 お知らせ

【特集】今の子供達は・・・尾木直樹さんに聞く

『八王子・子どもの居場所づくりプロジェクトの設立にあたって』



八王子・子どもの居場所づくりプロジェクトの設立おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

自然豊かな八王子に育つ「八王子っ子」達が、心身ともに健やかに成長し、精神的、社会的に自立した心豊かな社会人になることは市民すべての願いであり、その実現は私たち大人の責務でもあります。

子どもたちの健やかな「育ち」のためには、家庭・学校・地域がそれぞれの教育力を充実させるとともに、お互いの力を結集していくことができる環境づくりが重要です。

少子化・核家族化により、家庭では困難となった多世代間交流や友達同士での関わりなどの大切さを教える皆様の取り組みは思いやりや行動力、協調性など子どもたちの豊かな心の形成に大きく寄与するものであり、子どもたちの生きる力は、生活の拠点である地域という場で、多くの人達とふれあうことで、育まれるものと考えます。

最後になりましたが、皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

成 田 一 代

八王子市教育長



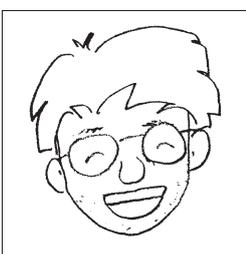
八王子・子どもの居場所づくりプロジェクトの設立を心からお祝い申し上げます。

近年、少子化や核家族化が進むなか、子どもたちが集団の中で様々な体験をする機会が減少しており、家庭や学校だけでなく、地域における子どもの健全育成のための環境づくりが必要となっています。このような状況のなか、子どもから大人まで幅広い年代の人たちとのつながりを大切にし、ながら、地域の子どもたちが主体となった居場所づくりを支援するため、八王子・子どもの居場所づくりプロジェクトが設立されたことは、大変意義深いと考えます。

現在、八王子市では、「元氣なまち八王子」を合言葉に、市民の皆様との協働によるまちづくりを進めているところでありますが、八王子・子どもの居場所づくりプロジェクトにつきましては、市が協働推進の取組みの一環として実施している「市民企画事業補助制度」の補助対象事業とさせていただきます。市といたしましても、八王子・子どもの居場所づくりプロジェクトの今後のますますのご活躍をお祈り申し上げ、設立にあたりましてのメッセージとさせていただきます。

白 柳 和 義

八王子市市民活動推進部長



- ・ このたび、新しく活動をはじめました「八王子・子どもの居場所づくりプロジェクト」という非営利市民団体です。去る5月23日に子安市民センターにおいて設立パーティを開催し、本格的に活動を開始しました。どうぞ宜しくお願いいたします。
- ・ 今日、「子どもたちが安心して過ごせる居場所がない」というような時代となりました。少子・高齢化が進み、子どもの活動が縮小化していくなかで、地域の子どもに関わる団体・個人と協力し合いながら、子どもたち自身がしっかりとした居場所を創りあげていくことを支援していくのが私たちの活動です。子どもの居場所づくりの中間支援センターを目指したいと考えています。
- ・ 子どもたちにとって安心な居場所を大人達が見守る地域を越えたネットワークを創りあげましょう。いわば「子どもの居場所づくりは、大人の居場所づくり」です。いろいろな世代の方々から交流しあうコミュニティづくりを通じて「元氣な八王子」を目指したいと考えています。

会長 炭谷晃男

設立趣意書

「八王子・子どもの居場所づくりプロジェクト」設立趣意書

「子どもたちが安心して過ごせる居場所がない」時代となっています。子どもたちの安全が脅かされているとともに、子ども自身が加害者となる事件も多く報道されています。子どもたちが安心して外で遊んだりすることができにくい社会になってしまいました。その原因は子どもたちにあるのではなく、私たち大人にも原因があり、子どもと大人の関係を見直す必要があると考えます。

子どもたちの居場所とは、次のような3つの側面をもった場だと考えます。

- (1)自分と向き合い、自分自身を創りあげる自由な場。
- (2)仲間とともに活動し、友達を創る信頼の場。
- (3)地域の大人と関わる、地域社会づくりの責任の場。

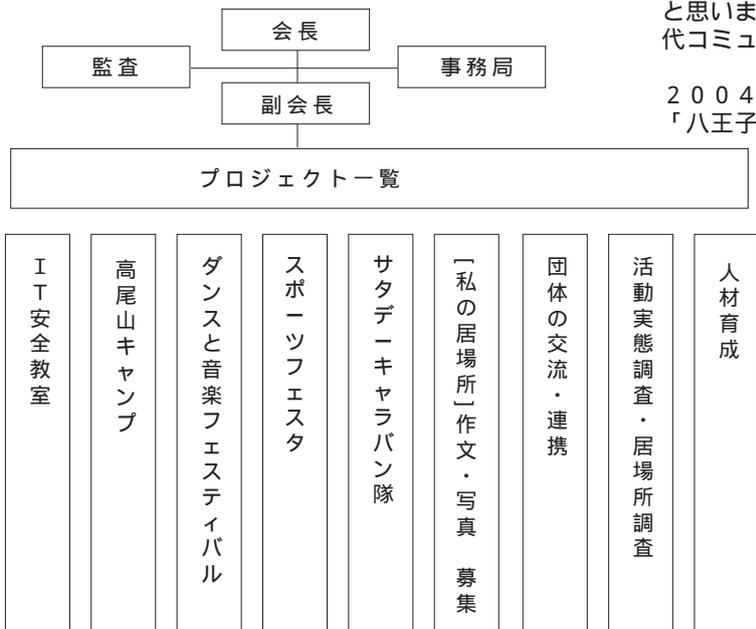
私たちが目指すのは、大人が子どもの居場所をつくり、そこで子どもを遊ばせることにあるものではありません。家庭、学校および地域という3つの空間に、子どもたち自身がしっかりと居場所を自ら創りあげ、大人があたたかく見守り、支援することを目的としています。私たち「八王子・子どもの居場所づくりプロジェクト」は中学校のサポーター、おやじの会、小学校のサタデースクール、地域の子どもの活動に関わる個人・団体が母体になり、地域を越えたネットワークを創りあげたいと考え、ここに結成を宣言します。

少子・高齢化が進展し、子どもの活動が縮小していくなかで、地域の様々な子どもに関わる団体・個人と協力しながら、子どもの居場所づくりに関わる活動をバックアップする情報・活動支援のセンターを築きあげることが私たちの活動目標です。この目的を達成するために、以下5つの活動を主に行います。

- (1) 子どもの居場所づくりを子ども主体で行う活動への支援及び実践
- (2) 子どもの居場所づくりに関わる各団体の交流・連携
- (3) 子どもの居場所づくりに関わる活動基盤整備のための情報提供
- (4) 子どもの居場所づくりのための人材の育成
- (5) 多世代間交流の促進・支援

いろいろな世代の方々が交流しあうコミュニティづくりを目指し、八王子のまちづくりに貢献したいと考えています。「子どもの居場所づくりは、大人の居場所づくり」なのです。私たちの活動は八王子市市民活動推進部の市民企画事業として認定を受け、協働事業の活動がはじまっています。今後は、NPOとして自立した市民活動を目指してまいりたいと思います。どうぞ市民の皆さん、子どもを中心とした多世代コミュニティづくりを一緒にすすめていきましょう。

2004年5月23日
「八王子・子どもの居場所づくりプロジェクト」会員一同



組織図

おいに期待しています！

「子どもの居場所づくりプロジェクト」は今、日本が最も必要としている仕組みのひとつです。設立を心からお祝いいたします。

先日モカッターナイフでの信じられない戦慄すべき事件が発生しました。最近子どもたちの育ちがあきらかにおかしくなっています。ということは、鏡となる親世代の育ちがおかしくなってきたということです。体験やコミュニケーション、とりわけ心や見えないものや基本的な精神的価値などの大切さを見直し、子どもが主体的にいきいき生きていける環境を再構築することが緊急最優先課題になってきました。子どもが居場所を得て元気になることなく、地域が元気になることは決してありえません。市民活動支援センターも一人ひとりがいきいきと生きられる社会を創るために、次世代育成支援を軸におきつつ、超世代・超分野・超組織での「横つなぎ」を実践しているところです。八王子市子ども政策推進協議会も子どもに関する施策を真剣に検討しているところです。貴団体が、同じ想いの団体と連携しながら、様々な場面でより良いモデルを実践して水先案内してくださることを大いに期待しております。

八王子市市民活動支援センター長 吉永 鴻一
八王子市子ども政策推進協議会会長



八王子市市民活動支援センター

さわやか福祉財団の活動について

「新しいふれあい社会」、そこではお互いの個性やプライバシーを尊重しつつ、困ったときは、お互いに助け合おうといった、そんな地域社会を構築するための活動を行っております。今、もっとも注力しているのが、30、40歳台の小学生を持つお父さん達の社会参加の仕組みづくりです。もっと具体的には、皆様が取り組んでおられるサタデースクールのような活動により多くのお父さん達に参加して頂くための仕組みづくりです。

おりしも、文部科学省が本年度より『子どもの居場所づくり』プロジェクトに取り組みしており、このうちの週末の活動に、お父さん達に参加頂くにはどうすればよいか、財団としても協力していく予定です。「八王子・子どもの居場所作りプロジェクト」の活動がひとつの有力な方向性を示していると思われまので、今後とも本プロジェクトの動きに注目し、全国発信していきたいと思っております。

さわやか福祉財団 蒲田 尚史



さわやか福祉財団

子どもたちが自ら選べるほどの居場所を！

子どもの居場所づくりプロジェクトの設立おめでとうございます。今こそ、子どもたちをあたたく見守る大人たちが力を併せる時と痛感していた私にとって、プロジェクトの設立はとても嬉しいことです。「八王子子ども劇場」は子どもたちの自らの力を信じ、活動を創ってしてきました。「子ども期を子どもとして生きる」ことのできる地域にしていくには、決して一団体でできるものではありません。公民、団体個人を問わず、多くの協働によって初めてできることではないでしょうか。しかし、協働といっても、子どもに向かう姿勢が同じ、あるいは、近いものでなければなりません。「地域の居場所づくりを子ども主体につくり上げる活動の支援」を掲げるプロジェクトの趣旨に賛同します。この八王子に子どもたちが自ら選べるほど多くの居場所をできることを願っています。

八王子子ども劇場代表 浅野 里恵子



八王子子ども劇場

心の居場所づくり

私どもC A八王子は、CAP(Child Assault Prevention=子どもへの暴力防止)プログラムを実践するグループとして、要請に応じて八王子や多摩地区の学校を回り、子どもたちに「暴力から自分の心と体を守る方法」を届けています。子どもワークショップで繰り返し伝えているメッセージは「人は誰でも“安心”して“自信”を持って“自由”に生きる権利を持っている」「暴力とは、その“安心・自信・自由”を奪われること」「権利を守るには“いやと言う・逃げる・相談する”の方法があるよ」。いわば“人権”からのアプローチによる防犯教育を重ねているわけですが、“人権”あるいは“権利”という言葉、子どもたちはみな、学齢なりの知恵を働かせてしっかりと受け止めてくれます。考えてみるとCAPとは、子どもたちのいわば“心の居場所”作りなのかもしれません。このたび発足した“たまり場”プロジェクトさんとは、今後ともよい交流をさせていただけますよう、どうぞよろしくお願ひ致します。

八王子CAP代表 島村優子



八王子CAP

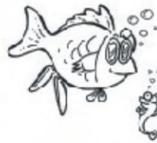


子どもの居場所づくりプロジェクト設立記念パーティー

5月23日子安市民センター



みんなが安全、快適にネット利用できること



5月23日に、私たち「八王子・子どもの居場所づくりプロジェクト」、通称「たまり場」の設立総会が行われました。設立総会を経て正式な市民活動団体となったことは、活動におけるおおきな一歩だと言えます。総会後は、設立記念パーティーを開催し、「たまり場」の会員はもちろん、6校のサタデースクールと、市役所の方や子ども劇場、八王子CAP、さわやか福祉財団といった団体にも参加していただきました。パーティー中の団体間の交流、歓談の様子を見て、協力し合いながらお互いの活動を活性化できようだな、共に「元気な八王子市の街づくり」という共通の目標を目指すことができるんじゃないか、そんな手ごたえを感じることができたすばらしいパーティーでした。

中沢 聖史



挨拶できるまち



交流会では、いまくらしているまちがこんなまちになったらいいな！という思いをカードに書いてみました。そこには「大人も子どももいっしょになって…」とか「心優しく

らせるまち」など、様々な“ゆめ”があり、それを色で表すと「オレンジ」とか「虹色」などと声があがりました。続いて、いまの八王子のまちを色でイメージしてみたところ、“ゆめ”の色と近いと思った人はいまして。そこで、そのギャップを埋めるために私たちには何ができるのかをグループに分かれて話し合い、発表しました。最後に、炭谷会長から、「八王子には、古くからの市街地やニュータウン、高尾山などの山間地域など、いろいろな地域があるので、そこにくらす人たちの“ゆめ”の色も多様なはず。いろいろな色はひとつに合わせると灰色になってしまう。それぞれの色を大切に、お互いに認め合っていくことが重要。「たまり場」はそれをサポートしていきたい。」と、挨拶があり終了しました。

高山 和久

自由な居場所

子供達が思い切り楽しめる場所を作りたい
子供達が夜遅くまで遊べるような町にしたい



地域のお父さんがサタデースクールで地域の親父として生き生きと活躍している



子供も大人も一緒に
なってでっかい芸術
作品を作る

心優しく暮ら
せる町にしたい

6 仲間のいる場所

そこに行けば仲間や友達が必ず居る、
という場所を作る
友達（大人も子供も）100人作るぞ

6 自然な場所

自然の多い公園などで泥になって遊んだり、基地を作ったり木に登ったりできたらよいと思います
大人と子供と一緒に野菜や木の実や花々を育て、収穫して小さい小屋を建てて炭を焼き、次の年の準備をする、そんな場所が身近にほしい

次世代の人々を含めて、「ずっとすんでいたい」と思えるような町づくり

6 ふるさとの場所

心のふるさとを持っている子供達
八王子で育ったことに誇りを持つ子供達

5月23日・設立記念パーティーで

“子ども”になってほとんど興味がなかった独身時代。仕事も遊びも余すところなく謳歌して、今が最高！なんて思っていた時期がありました。そして結婚、出産。始まった子育て。あたふたしながら生きていくうちに、初めて急切している自分を感じたのです。寝顔の可愛い我が子も起きている間は憎らしい。思うに任せない“怪物”を目の前に「子育ては一人じゃやってられない！」と痛感したのでした。そもそも私のスタート地点はここにあったように思います。一人は人と繋がってこそ生きてゆけるもの、一人っきりに苦しくなっちゃうーそれは育てる親も、育てられる子も同じなのですね。互いに育ちあうために、様々な場面で関わりや見守りを必要としている気がします。

23日のパーティーでは多くの方と出会い、たくさんの温もりをいただきました。普段は同世代としか付き合いのない私が、様々な世代の方と交流する事が出来たことは、本当に貴重な経験となりました。肩の力が抜けた反面、たくさんのエネルギーもいただきました。そしてこれから生きる子どもたちにも「他者と関わる力」を大切に育てていってほしいな、と思いました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

司会・大山陽子



自然に逆らわない暮らし



子供たちに
たくさんの経験を



子供も大人も楽しく挨拶しあえる町にしたい
子供、お年寄り、障害者、問でいろいろな人がごちゃ
混ぜになって楽しめる場所を
これからの高齢化社会に向かって元気な高齢者を作り、地域の指導者
として迎え、多世代間の交流をもっと活性化させたい

6 多世代交流

榎原小サタデースクール

榎原小サタデースクールでは、2003年4月からサタデースクールを開校しています。これまで、囲碁・お茶・生け花・英語・読み聞かせ・手芸・ゲーム・紙飛行機・釣り・ネオテニス・雑木林探検隊などの多彩な講座を、子どもたち向けを中心に実施してきています。

特色としては、季節に合った旬の講座を多く取り入れているところでしょうか。毎月の参加者は、子どもが80~100人、大人が20~30人程度ですが、地域の大人や中学生もやって来ます。榎原小での活動の主体となっているのは、保教(保護者・教師)の会のOBと現メンバーです。

講師としては、地域の方や小学校の教員の方に担当していただいています。

活動していて困っていることはたくさんあるのですが、最も心配しているのは、最近の不審者対策や不慮の事故を未然に防ぐのに重要な『見守る大人たち』の参加が不足している点です。

会長 中西 訓子

松が谷小サタデースクール

この度、松が谷小でも保護者の皆さんの要望にお答えすべく、PTAの特別委員会として「松が谷小学校地区サタデースクール運営委員会」を立ち上げました。今年度、松が谷小は隣の三本松小と統合し、新しい松が谷小として再出発しました。そこで、旧三本松小の子供達が早く馴染めるよう、また子供達の学年、性別を越えた遊びの場を確保することで今までにない友達の輪ができ、楽しい学校生活が送れるようになればと思っています。

運営委員会は私を含め4人という小さな所帯です。そのため当面は無理のない範囲での活動を目指し、校庭、体育館の開放を中心に、三本松小で実施していた科学実験教室、ハンドベル教室などを組みました。幸いなことに、松が谷児童館、体力作り推進協議会の方々にもご協力頂いております。今後は、地域の方たちも巻き込んで、子供達が楽しく遊び、学べるプログラムを計画していきたいと思っています。

会長 高田 真理子

館小サタデースクール

館小学校のサタデーについて会長の渡辺薫さんにおうかがいしました。こちらは平成4年からの校庭開放推進委員会からの流れを受け継いでいます。サタデーの運営委員は8名ほどで、保護者OBのおかあさん、地元野球クラブの監督、サッカークラブのコーチがメンバーになっている。通常、30名から40名の子どもたちが参加しています。プログラムとしては、家庭科室の料理や工作室での昔遊びなどが行われ、上級生が下級生の面倒をみることに特徴があります。さらに、1月のどんと焼き、5月には拓殖大学で行われるウォークラリー、7月のデイキャンプが三大行事となっている。デイキャンプは、カレーライスづくりや花火を楽しむ、全校生徒の半数近い約100名が参加している。

館小学校は1975年にできた館ヶ丘団地内にある学校で、団地ができて30年近くが経過していることから、地域の少子・高齢化が急速に進展している。今後は、他の地域でも試みられている近隣小学校との交流・合同開催ができたという希望をもっています。

会長 渡辺 薫

由井第一小運営委員会のメンバーは現在11名です。昨年度は8回の開催で14の講座を実施し、参加人員は延べ466人を教えました。講座内容は、物づくりとして、クリスマスカードや紙飛行機の作成などを行い、校庭では、サッカー教室やレクリエーションゲーム、また教養講座として英語教室や理科実験、手話などを行いました。今年度の活動として、学外活動として、農作業体験(サツマイモの苗植え)を6月に実施しました。9月に草むしり等を行い、11月に収穫を予定しています。また、教養講座として9、10月にはハンギング教室を実施する予定です。講師は、ボランティアで小学校の保護者の方や、地域の方をお願いしています。また、理科教室は、北八王子にあるアジレントテクノロジー社の地域貢献活動の一環であるアジレント・アフタースクールを利用させていただき、無償で工作キットの提供と講師の派遣を受け実施しています。

会長 白石 賢一



宮上小学校サタデースクールの紹介をさせていただきます。

運営は小学校のサタデースクール委員が行なっています。

毎回違うイベントで、幼児からお年よりの方まで沢山の方に参加ご協力いただいています。恒例になりつつある昔遊びやお餅つきなどの行事もあり、地域の方々との交流が広がっています。今年度はイベント行事だけでなく、年間を通じて

内遊び広場、読書広場のコーナーも企画しました。子どもたちのいろいろな希望に応えていきたいと考えています。

運営する側も参加した方たちも、みんなが楽しく元気になれるそんなサタデースクールをめざしてがんばっています。

これからの主な予定ですが、7月夏遊び、10月昔遊び、2月お餅つき大会など他にも楽しいこと盛りだくさんです。

ぜひ、みなさんも宮上小学校サタデースクールに遊びに来て下さい。

副委員長 藤岡 美和子

今回の佐世保での小学生の事件について、「心の教育」「インターネットやチャット」「前期思春期と子どもの発達に関わり」という視点から尾木直樹先生にお聞きしてきました。

「心の教育」「命の大切さ」をいかに伝えるか

佐世保の少女も「命の大切さ」をよく分かっている少女でした。二月の日記には環境汚染の問題をあげ、全ての動物や植物には命があり、それを大切にしなければならないと書いています。徳目としての命の大切さは理解していたとしても、自分の感情として、命を大事にするという沸々と湧いてくる感性の教育は成し遂げられていない。他人を思いやるという根底には、自分が、周囲の仲間、先生、家族や社会から思いやられているという体験があってはじめて、他人を思いやる子どもや命を大切にすることが育つのです。今の子どもたちは自分のことを愛せない状況にあります。「自己肯定心」（セルフエスティーム）が低ければ他人のことを愛することはできないのです。

前期思春期：心の発達ともう一人の自分の登場

事件の翌日「普通の生活をしたい」、「メールや手紙ではなくて、直接会って怜美ちゃんにお詫びをしたい」という加害少女の言動が報道されました。ここに思春期に誰もがもつ人格乖離的な現象がみられます。女の子は小学校5年生前後から思春期に入り、第二の自分というものを自分の中に意識し始める。身体的な変化が引き金になり、内面的な自分というものを見つめることとなります。まさに加害少女は、思春期の第二の自分が登場していました。彼女は、かわいくて、男の子にも人気があり、成績もクラスで五番以下にはなっていない聡明で、自分の主張はあまりはっきり出さないような子だったそうです。しかし、その子のつくったホームページをみると、アバター（分身）が普通の少女からカボチャに変身している。言葉遣いも「ウゼー」とか「愚民」とか「エロい」等が使われ、普段の彼女の生活を知る人には全く想像が出来ないものです。しかし、それが思春期の第二の自分の姿なのです。

彼女たちはのたうち回るように苦しんでいて、告白日記を書いたり、あるいは交換ノートをするというのはそういう自分を許す場所相対化の作業でもあります。ノートの中でいろいろ告白するのですが、そうしているうちに自分というものに気づいていく。信頼できる友人あるいは自分自身との間の秘密に行われる作業が、ホームページを持つことによって、陰の自分が主役になってしまう。そのことが思春期前期のこどもたちの発達をゆがめてしまう。

インターネット：大人がいかに子どもに関わるか

インターネットやchatについて、先生や親の目の行き届かないところで、子どもたちだけにさせるのはとんでもないことだと思います。大人がしっかりと子どもを守るガイドラインをもつべきです。校長・教頭へのアンケート調査では、この事件を通して初めて子どもがこんなにチャットをしていると知った校長・教頭が全国の半分もいた。教員に対してのアンケートでは、掲示板への書き込み経験のあるものは12～3%、チャットをしたことのあるものは数%だった。問題は、先生が子どもの生活の実態をつかめていないことにあります。子どもたちの携帯やインターネットなどのメディアの使用実態がわかっていない。さらに先生方に対して「どういうことを教育委員会・文科省にもとめるか」というアンケートでは、1番が「命と心の教育のやり方についての研修」、2番目が「子ども理解のカウンセリング研修」だった。子どもが理解できないのなら、もっと子どもの世界に飛び込めばいいのに、対応の研修に目が向いて、先生方は子どもたちと離れたところで頑張ろうとしている。わからなければ、子どもに聞けばいい。「わからないことは子どもに聞く」が教育の原点です。今回の事件は、対処療法的な対応は無意味で、教育の原点に立ち戻れと言うことを示唆しているといえるのではないのでしょうか。



（6月28日：談 尾木直樹先生、編 炭谷晃男）

今の子供達は

「IT安全教室」のご案内 私たちの第一号プロジェクト

募集要項

見知らぬ人からメールが届く、ウイルスに感染してしまった、冗談のつもりで書いた掲示板でケンカになってしまった・・・インターネットは大変に便利なものですが、使い方を誤ると、個人情報漏洩したり、ウイルスの被害を受けると同時に加害者になったり、仲良しどうしで喧嘩になることさえあります。

パソコンにソフトを導入することにより解決できる問題があります。ルールやマナーを守ることで防げる問題もあります。

「IT安全教室」では、インターネットを安全に安心して使える方法について学習します。ルールやマナーについては具体的な例を挙げて問題を理解して頂きます。7月19日に小学生高学年と保護者用の講座を開催します。次の募集要項をお読みの上、お申し込みください。

対象：

小学4年生以上（保護者の方の同伴が必要）、
各回16組まで

日時：

2004年7月19日（月曜・海の日）
Aクラス：13時～、Bクラス：15時～
（Aクラスと同一内容）

場所：

八王子市立下柚木小学校（南大沢駅下車）パソコン室
受講料：

300円（小学生1名・保護者1名が1組で300円）

申込方法：

姓名（小学生、保護者）、連絡先（住所、電話）、
希望クラス（AまたはB）を明記の上、
次のいずれかの方法でお申し込みください。

FAX：042-339-0056（大妻女子大・炭谷研究室）

電子メール：ash_m314@ybb.ne.jp

申込ハガキ：192-0364

八王子市南大沢 3-14-2-204 芦田 秀規

参加者募集

スポーツフェスタ

ダンスと音楽フェスタ

サタデーキャラバン隊

地域対抗、サタデースクール対抗のスポーツフェスタを今年の11月に開催する予定です。スポーツ種目については、各サタデースクールで練習して、スポーツフェスタで対抗戦を行うものと（フットサル、タグラグビー、ネオテニスなど）、当日すぐに誰でも参加できるもの（大縄跳び、綱引き、玉入れ、キモリのしっぽなど）を考えています。このスポーツフェスタでは、子どもも大人も一緒にスポーツを楽しめる場にするのはもちろんですが、それだけではなく、このスポーツフェスタを通して、サタデースクールを含む地域の団体や個人の結びつきと交流を深めることができる場にしたいと考えています。子どもだけではなく、いろいろな地域、いろいろな世代の人たちのご参加をお待ちしています。「よし、スポーツフェスタにむけてスポーツ教室を始めよう！」という方、是非、声をかけてください。お手伝いします。

企画 炭谷・太田原・中沢・今井

今、市内の各学校や地域では“ソーラン踊り”をベースにした創作ダンスが盛んになりつつあります。そこで私たちは、来る2005年3月に そうしたダンスの発表の場を設けようと考えています。“ソーラン節”をベースにしたものであれば、どのようなダンスでもOKです。今まで皆さんの地域で踊ってきたダンスを披露していただくもよし、このイベントのために新たに創作するもよし、です。サタデースクールで教室としての取り組むほか、地域でわかソーラン踊りチームを組んでも楽しいかと思ひます。また、取り組みにあたってサポートが欲しい！という場合は、どうぞご相談ください。たくさんの大人たち、子どもたちが集って熱気溢れるイベントにしたいと思っています。詳しくは随時会報にてお知らせして行きますが、たくさんの皆さんのご参加をお待ちしています。

企画 大山・山城・溝口・森田

子ども達の笑顔いっぱいの居場所をもっとたくさん作りたい。。。八王子市内には現在たくさんのサタデースクールがあり、このサタデースクールも子どもの居場所のひとつです。それぞれ個性あふれるすばらしい活動をしていますね。でも、活動を進めていく上で困ったこと、どうしていいかわからないようなことはありませんか？ そんなときは『サタデーキャラバン隊』に声をかけてください！「どうやってサタデースクールを始めればいいのか？」、「運営で困っていることがあるんだけど」、「教室をもっと開設したい！」、「先生や指導者を紹介してほしい」どんなご相談でもかまいません。一緒に考えていきましょう。

企画 太田・荒井

大江戸舞祭

開催場所： 八王子富士森陸上競技場
 開催日： 2004年8月28日（土） 午前10時～午後4時
 主催団体： 八王子大江戸舞祭実行委員会2004

連絡先：
 〒193-0812 東京都八王子市諏訪町56-3
 TEL/FAX 0426-51-4018 / 0426-52-1340
 E-mail ohedo.8o-ji@mist.ocn.ne.jp
 詳細はホームページにて！ → <http://www.oh-edo.jp/>

災害伝言ダイヤルについて

特別試用期間：7月24日（9時より）～25日（15時まで）
 利用可能範囲：0426市外局番地域
 ※尚、「0426」の市外局番を使用する地域はすべて利用できますが、通話料がかかりますのでご了承下さい。
 詳しい説明は<http://coden.ntt.com/service/dengon/disaster.html>に掲載されています。よく読んで利用してください。

災害伝言ダイヤルとは…
 大規模な災害が発生した際に、被災地域内やその他の地域の方々との間で「声の伝言板」の役割を果たすシステムです。被災地の方々が録音した安否情報等を、その他の地域の親戚や友人が、全国に設置された「災害用伝言ダイヤルセンター」を通じて再生することができます。伝言の録音・再生は被災地の方々の自宅の電話番号を使って行います。

情報掲示板



イベント情報等ございましたら
 たまり場事務局までお気軽にお寄せください！

会員募集

会員を募集しています。
 個人はもちろん、各種団体での参加も大歓迎！

お問い合わせ

担当：溝口拓 〒192-0063 東京都八王子市元横山町1-20-20
 Tel/FAX：0426-45-8983 / 0426-45-8987
 E-mail：mizoguchi_taku@ybb.ne.jp

	入会金	年会金
正会員	2000円	3000円
学生会員	なし	1500円
準会員	2000円	なし
賛助会員	なし	一口10,000円 (一口以上)

会費振込み先：郵便口座 記号10120 番号71378441

イラスト 小林美穂、海道真澄